

第12回理科教育賞 講評

【理科教育賞 大賞：楯と副賞100万円 1校】

●東京都 成城学園初等学校：

ハイブリッドカーを題材とした、既存教科である理科との関係性もしっかりと考慮されたSTEAM 教育として評価する。時期をずらせて実施するなどの未知の単元指導における配慮や、事前・事後のGoogle フォームでのアンケートによる成果の測定なども評価できる。意欲的な発展途上の実践と推察でき、今後の更なる展開に期待したい。

【理科教育賞：楯と副賞50万円 3校】

●茨木県 牛久市立牛久第二小学校：

多くの単元に対して、教材、教具を工夫して授業を実施している様子が報告書からうかがえる。実践の成果の検証もしっかりされている。国語や総合的な学習の時間と連携して、科学的な表現能力育成を行っている点も評価できる。表現力の更なる育成や1人1実験の問題点の克服など、残された課題解決を目指して研究を継続されることを期待する。

●東京都 東京学芸大学付属竹早中学校：

科学史とSTEAM 教育を複合的に取り扱う、理科学習のあり方に変革を迫る挑戦的な研究である。オリジナル（ボルタ電池）とその進化形の電池の共通点や相違点から電池進化の過程やそこで必要となった科学技術を考えさせるなど、教育の独創性が感じられる。課題設定、授業づくり、評価に至る流れもきめ細やかで、研究の緻密さが読み取れる。電圧・電流・抵抗などの基本的概念がどう生まれたのかなど、今後更に内容を充実させていていただきたい。

●茨木県 銚田市立銚田南中学校：

しっかりした事前準備の上、計画的に行われた、地域の特性を活かした独自性のあるエネルギー・環境教育の実践として評価する。課題解決に必要な資質・能力を定義し、その獲得状況を評価するなど、実践結果の評価も定量的、具体的である。今後の課題も精査されており、それらの解決を目指した、継続した実践を期待したい。

【理科教育賞 ポスターセッション賞：楯と副賞20万円 1校】

●福島県 小野町立小野小学校：

「極める」というキーワードは斬新であり、それに共感した投票者も多かった。「極める」という発想で授業を構築すれば、必然的に児童中心で、児童一人一人が主体的に取り組む授業にならざるを得ない。このような授業で成功体験を得た児童は、将来にわたり理科好きになるであろう。今後、より多くの単元について、「極める」、「生み出す」をキーワードに教材を開発し、外部へ発信していただきたい。